

# いのち、痛みに全力

地域医療により大きく貢献!!

VOL. 46  
2021 / February

## CONTENTS

- 院長新年の挨拶
- 診療科紹介(糖尿病内科・脳神経内科)
- 栄養科梅酒ゼリー • リハ科(嚥下体操)
- お昼の汁物提供 • 院内改装
- 気管挿管実習
- 医療連携医紹介



病院の正面玄関前雪景色

基本理念 | 手には技術、頭には知識、患者様には愛を

基本方針 | 高度医療 学問的に高い水準の医療を提供します。そのために必要な施設・設備の整備拡充に努めます。

チーム医療 患者様の目線に立った安全で安心できるチーム医療を提供すべく、急性期医療から、早期リハビリ、退院支援までニーズに沿った医療を提供します。

地域医療 いつでもだれでも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域の中核病院を目指し、地域の医療施設・福祉施設と密接な連携を推進します。

いのち、痛みに全力

福岡和白病院 広報誌  
第46号 2021年2月発行



ホームページ  
<https://www.f-wajirohp.jp/>



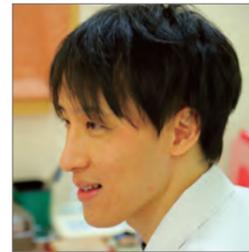
Facebook  
<http://www.facebook.com/wajiro>



## 医療連携医のご紹介 医療連携室だより



医療法人社団わかば会  
そらレディースクリニック  
Sora Ladies Clinic



そらレディースクリニック院長  
林 広典

「女性の一生に寄り添う産婦人科」をコンセプトに、産科・婦人科・麻酔科診療を行っています。無痛分娩24時間対応、入院時家族宿泊可、女性医師常勤の他、院内Wi-Fi完備、アロマエステ、ママさん向けセミナー・離乳食教室・マタニティヨガなど各種教室開催、お祝い膳としてフレンチフルコースのプレゼントなど、安全で正確な医療の提供はもちろんのこと、より快適に患者様にお過ごしいただける環境を整えております。福岡県内だけでなく、県外からも多くの方にご来院いただいております。遠方からの計画無痛分娩入院も対応可能です。今後もより良い医療の提供、快適な環境の整備に努め、皆様のご希望に沿うことができるよう力を尽くして参ります。妊娠・出産に関することなど、どんな小さなことでも構いません。なんでもお気軽にご相談ください。

院長: 林 広典 診療科: 産科・婦人科・麻酔科  
住所: 福岡市東区和白丘2丁目2-45 駐車場: 完備  
電話: 092-605-3511

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	●	●	●	●	●	●	△
14:30~18:00	●	●	○	●	●	●	△

休診日: 日曜・祝日  
○: 水曜日の午後は1ヶ月健診の診察になります。  
※産科の患者様は初診の方でも24時間受付いたします。



そらレディースクリニック



### 交通アクセス

福岡大前駅 (JR) から徒歩15分 和白駅 (西鉄) から徒歩10分  
和白駅 (JR) から徒歩10分 福岡空港から車で約30分  
和白丘バス停 (西鉄) から徒歩3分

社会医療法人財団 池友会 **福岡和白病院**

〒811-0213 福岡市東区和白丘2-2-75 E-mail info@f-wajirohp.jp

TEL. 092-608-0001 (代)



災害拠点病院 開放型病院 地域医療支援病院  
基幹型臨床研修指定病院 日本医療機能評価機構認定病院



## ～血糖値の理解は点から線に～

糖尿病治療の目標は「健康な人と変わらない寿命を確保する」事にあります。

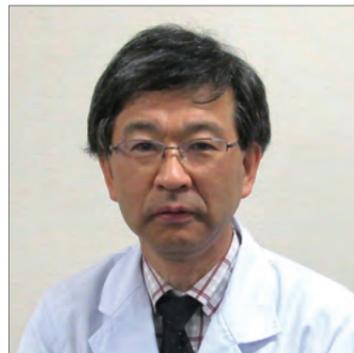
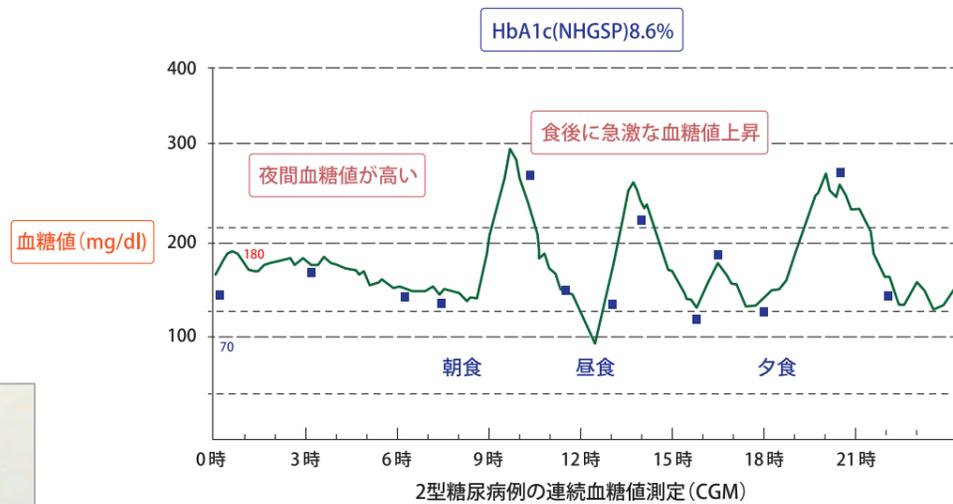
つまり「糖尿病が有っても健康で元気な生活を長く送れる」為に継続治療が必要です。糖尿病学会の治療ガイド2020年度版には、病気に関係する偏見等スティグマを除く事や治療環境を改善するように啓発活動（アドボカシー）を通して患者さんを支援する重要性が示されています。

国民病とも言われる程増加した患者さんを長期に支える為に「医療機関の機能分担・連携」が提案されています。当院のような「地域支援型病院」の糖尿病診療には、①手術を要する糖尿病患者さんや、②併発疾患で体調不全になった糖尿病患者さんの診療（シックデイ対応）等、急性期医療での診療サポートが求められます。安定して経過観察が主体になった方の外来診療は、近隣の医療機関に「かかりつけ医」を御願ひする事になります。

最近話題となっている検査に連続血糖測定（CGM）があります。今迄の随時血糖値とHbA1c（ヘモグロビンA1c）だけでなく、1日の血糖変化「血糖日内変動」を

評価する傾向になっています。「血糖日内変動」を知る為の検査がCGMです。HbA1cは約1カ月間の血糖値の平均を示しますが、具体的に「どの時間が高いか低いか？」は示しません。CGMでは連続して数日間の血糖変動が記録出来ます。自己血糖測定では測定時点の「点としての血糖値」なのに対し、CGMで得られる情報は「曲線として血糖値変動」が表現されます。血糖変動を「点から線に」理解を深める事で、治療対策も「この時間が高いので、この薬をこの時間に使用して…」等と具体的に細かな指示が出来るようになりました。また、低血糖状態なのに自覚症状が出ていない「無自覚性低血糖」（特に夜間就寝中の低血糖）が発見されたりもします。

インスリン発見から約100年が経過し治療薬も随分増え、検査機器も開発され1型糖尿病、2型糖尿病とも治療法が大きく進歩しています。これらを有効活用して「血糖調整を上手に行って、合併症を起こさずに健康的で自立した生活を長く送る」為に、患者さんと共同して治療していきたいと思ひます。



糖尿病センター長 石井 正夫

診療科 糖尿病内科  
出身大学 熊本大学卒  
資格 日本内科学会認定内科医、日本内科学会指導医、日本糖尿病学会研修指導医、日本糖尿病学会専門医、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医

# 新年挨拶

福岡和白病院 院長

## 富永 隆治

とみなが りゅうじ



新年あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）がワクチン等によって克服され、本年が皆様方にとって復活の素晴らしい年になることを祈念いたします。

さて、中国武漢で発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は燎原の火のごとく瞬く間に全世界に広がり、1年たった今でも感染拡大を続けています。福岡和白病院でも、9月初めに感染者総数19人のクラスターが発生しました。全職員の懸命な努力の結果、感染拡大は限定された部署にとどまり、外来は通常どおり、多くの手術も止めることなく続けることができました。9月末には完全に元の状態に復帰しましたが、地域の皆様にはご心配をおかけし、また感染された患者様には多大のご迷惑をおかけし申し訳ない気持ちでいっぱいです。

クラスターを経験することで、私たちは多くの事を学びました。COVID-19の診断は単一の指標ではなく、病歴・臨床症状・画像診断・血液所見を含めた総合的判断によること、手洗い、マスク着用、清拭の基本手技は感染拡大防止に重要であること、抗原検査、PCR検査は、限界はあるが有用であり、適応を拡大し少しでも早く陽性者を見つけ出し隔離すること、そして何よりも重要なことは職員の

COVID-19に対する意識を高めることでした。感染が危惧される繁華街の飲食店への出入り禁止や多人数での会食を禁止しました。院内感染を防ぐため、感染専用病床としてHCU16床をあて、外来入口は、一般外来、発熱外来、救急外来の3ヶ所に分け、発熱患者を他の患者様に接触させないようにし、また病棟をまたいだスタッフの移動は極力制限しています。さらにID Now（測定時間が13分と短く、精度は抗原検査と従来のPCR検査の中間位）という測定機器をいち早く導入し、時間のかかるこれまでのPCR検査を補完するようにしました。職員一丸となって9月の危機を乗り越え福岡和白病院はCOVID-19に対してだけでなく、より強い病院に変身したように感じています。福岡和白病院は設立以来34年間、救急医療に取り組んでまいりました。新型コロナ感染症が猛威を振るう現在でもその方針は変わりませんが、社会の要請もありECMO（現時点で2名救命）を含む重症・中等症のコロナ患者も受け入れています。また昨年末3名の看護師を大阪のコロナ専門病院に派遣しました。救急医療を堅持し同時に重症コロナ患者にも対応することが、現時点での当院の使命と考え、職員一同猛進する所存です。今年も宜しくお願いいたします。

# リハ科 嚥下体操

嚥下体操とは、食事のための準備運動です。口や首、肩などの筋肉をほぐしたり動かすことで、唾液を出しやすくし、飲み込みやすい状態に整えます。

体操は食事をする直前に行うことがお勧めですが、空いた時間にテレビを見ながら訓練として行っても構いません。

毎日継続することが大切です。

各運動は3～5回を目安とし、無理せず、痛みが出ない範囲で、大きく動かしましょう。

## 運動の注意点

- 準備運動として行う場合 毎食前1セット
- 訓練として行う場合 1日5～10セット
- 各運動3～5回

### 1 姿勢



リラックスして腰掛けた姿勢をとりまわす。

### 2 深呼吸



お腹に手をあてて、ゆっくり深呼吸します。

### 3 首の体操



ゆっくり後ろを振り返る。左右とも行う。



耳が肩につくように、ゆっくりと首を左右に倒す。



首を左右にゆっくりと1回ずつまわす。

### 4 肩の体操



両手を頭上に挙げ、左右にゆくりと下げる。

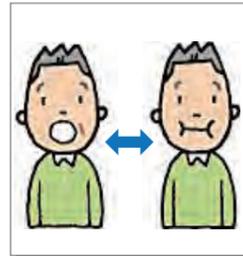


肩をゆくりと上げてからストンと落とす。

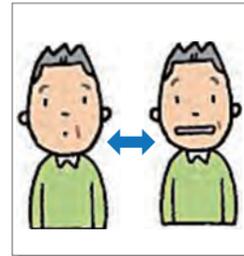


肩を前から後ろ、後ろから前へゆくりとまわす。

### 5 口の体操

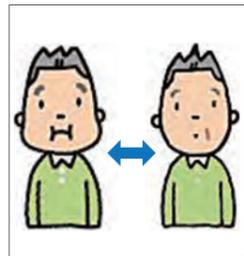


口を大きく開けたり、口を閉じて歯をしっかりと噛み合わせたりを繰り返す。



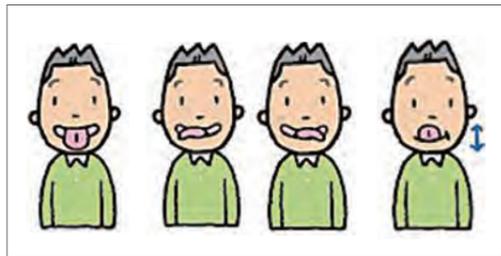
口をすぼめたり、横に引いたりする。

### 6 頬の体操



頬をふくらませたり、すぼめたりする。

### 7 舌の体操



舌をべーと出す。舌を喉の奥の方へ引く。

口の両端をなめる。

鼻の下、顎の先をさわるようにする。

### 8 発音の練習



「パ・ビ・ブ・ペ・ポ」「パ・タ・カ・ラ」をゆくり、はっきり、くり返す。

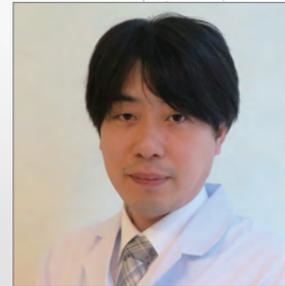
### 9 咳ばらい



お腹を押さえてエヘンと咳ばらいをする。

引用元 はじめよう! やってみよう! 口腔ケア <http://www.kokucare.jp/>

## 脳神経内科 診療科案内



脳神経内科 医長 船水 章央  
 診療科 脳神経内科  
 出身大学 弘前大学卒  
 資格 日本内科学会認定医  
 日本神経学会専門医  
 日本脳卒中学会専門医  
 医学博士

当科では病歴と神経学的所見をもとに、パーキンソン病をはじめとした神経変性疾患、ギランバレー症候群などの炎症性脱髄疾患、髄膜炎等の神経感染症など幅広い神経疾患の診断・治療を行っております。神経学的検査では高次機能検査・神経伝導検査・針筋電図などの専門領域に特化した検査が可能です。画像検査ではCT・MRI・脳血管造影などの検査に加え、パーキンソン病などの神経難病をよりくわしく精密に検査するための核医学検査も可能です。患者様の訴えから必要なものを選択し正確な診断および治療ができるよう心がけています。是非お気軽にご相談ください。



## 梅酒ゼリー 行事食の紹介

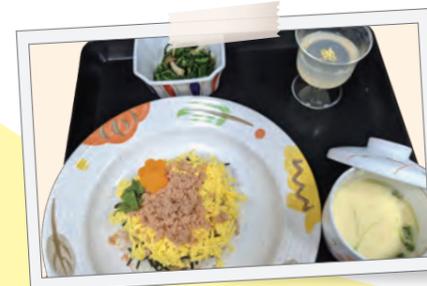
梅酒ゼリー [材料] 1人前  
 梅酒…… 15cc  
 水……… 55cc  
 粉寒天… 0.7g  
 砂糖…… 8g  
 金粉…… 0.02g (お好みで)

明けましておめでとうございます。  
 当院では毎年、正月三が日の病院食は雑煮、お赤飯、散らし寿司、黒豆、紅白なますなどのお節料理を少しずつ献立に組み込んで提供させて頂いています。  
 今年は特に梅酒ゼリーに工夫を凝らし、ワインカップに入れ、金粉を一振り♪させて頂きました。ゼリーの見た目がぐんとおしゃれになり、配膳する職員からもとても好評でした。そこで、今回は、梅酒ゼリーのレシピをご紹介します。是非おうちでも作ってみてはいかがでしょうか。



### 作り方

- ①水に粉寒天をふやかしておく。
- ②梅酒、砂糖、①を入れ、粉寒天、砂糖が溶けるまで火にかける。
- ③粗熱をとり、容器に入れ冷蔵庫で冷やし固める。
- ④金粉を一振り♪ミントの葉やセルフィーユなどを飾り付けてもおしゃれですね。



# 救急救命士 気管挿管実習

## 気管挿管実習 再教育

Paramedic



### 気管挿管実習

当院では以前の広報誌でも掲載させていただいておりますように救急救命士による心肺停止患者などに気道を確保する方法としてチューブを口から挿入する気管挿管という手法を用います。この手法を行う救命士となるには、実際の患者様に対しての実習を経験しなければならず、当院では、この実習の受入を行っています。気管挿管成功症例30症例で修了となるこの実習は、平成17年より実施し本年度で65名もの救急救命士が実習修了され現場で活躍されております。修了おめでとうございます。



### 気管挿管実習再教育

また、修了者に対するのスキル維持のため、粕屋北部消防本部では気管挿管実習再教育として富永 昌宗麻酔科統括部長による講義と各救急救命士が人形を使用しての実技評価が行われ、皆様が高い評価をいただいております。病院実習での同意をいただき協力していただいた患者様に対して、お陰様で救命率向上のために現場活動で活かさせていただきますと深く感謝しておくようにと富永 昌宗麻酔科統括部長の話で結ばれて終了しました。

これからも各消防署との連携を強化し、地域医療に努めていく所存です。



ほっ  
ひと  
いき

## お昼汁物のご提供

寒い冬が始まりました!!  
コロナ禍の中、寒いとはいえ、院内の換気をしないわけにはいきません。  
当院では、寒い中でお弁当を食べている職員へ向けて、昼食時に豚汁やすまし汁など日替わりで無料提供しています。  
院内には職員食堂もありますが、お弁当を持参する職員には会議室を開放し、“密を避ける”対策をとっています。  
調理は管理栄養士が担当しており、汁物を食べた職員からは『美味しかったです』『温まりました〜』など嬉しい声がかかれました。



## 院内のリニューアル工事を行っています!!



患者様が  
過ごしやすい  
病院へ

▲2階外来フロア

当院は2005年(平成17年)に現在の11階建ての病院へ移転しました。建物は築14年となり少し修繕箇所もみられるため、より患者様が過ごしやすい病院へとリニューアルする工事を行っています。

入院病棟は今年の5月から病室の壁紙を張り替えより明るく目に優しい部屋へとリフォームしました。床もワックスを変更して磨き直したため、明るい病棟になっています。

11月は1・2階の総合外来の床をこれまでの絨毯敷からタイルカーペットに変更しました。夜間に少しずつ張り替え工事を進めましたので、毎朝タイルカーペットの面積が広がりワクワクしながら工事の進み具合を見ていました。外来患者様からも「明るくなった」「先が見やすくなった」「歩きやすくなった」等のお褒めの言葉を頂いています。今後もより過ごしやすく感染面にも配慮した病院を目指して取り組んでいきます。



▲1階受付前



▲1階検査ブース前